

成に熱心に取り組み、実績を上げていく。学生のアントレプレナーシップを伸ばす起業家育成プログラムを実践するほか、大学発ベンチャーも立ち上げた。

「学生には、何を学んだかではなく、何ができるようになったかを求めている。心に火を付けることが重要」と主張する、中山峰男学

長に独自の教育や私学の課題を聞いた。
—学生の心に火を付けて、それに向かって努力してほしい。学生

崇城大学学長

中山 峰男 氏

600校の生き残り戦略

私大トップに聞く

(80)

好奇心かき立てて起業家輩出

は殻をかぶったひな鳥です。

「本学の大学院生ら割って外に出ると、世の中にはわくわくする業を立ち上げた。熊本県と共同主催した、県がバイオベンチャー企業を立ち上げた。熊本県にも取り組んでい

「学外の起業家やベラムの内容は。起業家育成プログラムは、資金面の

「学生の心に火をつける」との言葉からは、一人ひとりの学生を大切に育成する思いや教育への情熱が感じられた。中山学

「私立大が置かれた状況をどう見ますか。支援している。ベンチャー起業論など産業界 国立大にできないこと

「生き残りをかけてやるしかない。学生

「私立大が置かれた状況をどう見ますか。支援している。ベンチャー起業論など産業界 国立大にできないこと

「生き残りをかけてやるしかない。学生

「生き残りをかけてやるしかない。学生

「生き残りをかけてやるしかない。学生

「生き残りをかけてやるしかない。学生

「生き残りをかけてやるしかない。学生

「生き残りをかけてやるしかない。学生

「生き残りをかけてやるしかない。学生



なかやま・みねお 71年(昭46)熊本大工卒。同年積水化学工業入社。80年君が淵学園入職。93年熊本工業大学付属情報技術専門学校(現崇城大学専門学校)校長。03年君が淵学園理事長、崇城大学学長。熊本県出身。71歳。

一人ひとりにどれだけ愛情を注げるか、心に火をつけることができ

教育・経営センスの両立期待

記者の目

「学生の心に火をつける」との言葉からは、一人ひとりの学生を大切に育成する思いや教育への情熱が感じられた。中山学長は、日本私立大学協会の副会長兼九州支部長でもある。地方私学の地域格差や18歳人口の減少から、「私学は斜陽産業」と私学全体の未来を心配する。私学のトップとして、教育者と経営センスの両立が問われる。今後の取り組みに注目したい。(九州中央支局・勝合聡)